

## 令和6年度第6回霞ヶ浦自然観察会実施結果

**日 時**：令和6年10月19日（土） 9時30分～12時30分

**テーマ**：霞ヶ浦の自然再生区で湿地の植物を観察しよう

**場 所**：霞ヶ浦田村・沖宿・戸崎自然再生事業区H区周辺

**案 内**：小幡和男（茨城県霞ヶ浦環境科学センター）

**内 容**：霞ヶ浦環境科学センター下の霞ヶ浦畔では、2004年に霞ヶ浦田村・沖宿・戸崎自然再生協議会が設置されました。この場所で、昨年度、特定外来生物指定種オオバナミズキンバイの駆除と、かく乱による生物多様性の促進を目的に、大規模な工事が行われました。現時点で、オオバナミズキンバイの再生は見られず、工事の目的は達成されたと考えられます。

今回の観察会では、その工事の様子と、絶滅危惧種のタコノアシやミズアオイなど、土中に眠っていた多くの湿性植物の種子が発芽発生した様子などを観察します。

**参加者**：15名

**担当職員**：6名

**パートナー**：6名

**結 果**：この観察会では、霞ヶ浦環境科学センターから湖岸の自然再生区まで、移動しながら湿地の植物を観察しました。全体を通して約50種の植物を観察することができました。

観察会で観察した主な植物とその内容を時系列に従って下に示します。

☆霞ヶ浦環境科学センターの生きもののにわで、まずミズアオイとタコノアシを観察して、自然再生区に向かった。

○ミズアオイ・・・ハス田などに見られる。6本ある雄しべのうち5本は葯が黄色、1本が黒紫色。これは黒紫色の昆虫に目立たない色で確実に受粉する仕組み。

○タコノアシ・・・果実のつき具合が蛸の足を連想させる。そろそろ紅葉する時期でやや赤くなってきた。

☆自然再生区に行く途中のハス田で、きれいな花を咲かせたミズアオイとオモダカを観察することができた。

○オモダカ・・・矢じり形の葉が特徴。白い花を咲かせている。利尿作用がある薬草。

☆自然再生区に行く途中のあぜで、コセンダングサとアメリカセンダングサ、サクラタデとシロバナサクラタデ、イヌタデとオオイヌタデ、ホシアサガオとアメリカアサガオ、ツユクサとカロライナツユクサを比較して観察した。

○コセンダングサの果実は細長い形、アメリカセンダングサの果実は幅広い形。より湿地性のアメリカセンダングサの果実は水に浮く形をしているのではないか。

○サクラタデ、シロバナサクラタデとも秋に美しい花を咲かせる湿地のタデ科植物。花はサクラタデの方やや大きく、ピンク色で美しい。

○イヌタデ、オオイヌタデとも代表的なタデ科植物。葉の茎につくつけ根のところを観察すると、葉鞘と呼ばれる鞘状の托葉の縁に毛がある（縁毛）のがイヌタデ、毛がないのがオオイヌタデ。

○小さく白い花がマメアサガオ、青く大きな花がアメリカアサガオ。アメリカアサガオの葉はアサガオの葉に似て切れ込んでいる。

○やや小さく淡い青色の花がカロライナツユクサ、最近急激に増えている。

☆自然再生区について、まず、繁殖が問題になっている特定外来生物指定種ナガエツルノゲイトウなどを観察した。

○ナガエツルノゲイトウとミズヒマワリは霞ヶ浦湖岸で大繁殖している特定外来生物指定種。花はよく似ているが、分類的には全く別の植物（前者はヒユ科、後者はキク科）。両種とも小さな断片から繁殖する能力を持つ。ナガエツルノゲイトウは茎が中空なのが特徴。

さらに、最近侵入したアマゾントチカガミを観察、葉の裏の浮袋が大きいのが特徴で、在来のトチカガミと区別できる。

☆自然再生区の堤防と湿地に生育する似た者どうし、オギとススキ、ヨシとセイタカヨシを比較しながら観察した。

○オギは湿地、ススキは堤防、ヨシは湿地、セイタカヨシは堤防に生育している。

○オギとススキの花を比較すると、芒がなく長い毛が生えているのがオギ、芒があり毛が短いのがススキ。

○ヨシとセイタカヨシを比較すると、小穂がやや大きいのがヨシ。セイタカヨシは背が高く、昨年の茎が枯れずに節から新たな芽を出すのが特徴。

☆自然再生区H地区で、特定外来生物指定種オオバナミズキンバイを駆除し、湿地の生物多様性を促すために昨シーズンの冬行った工事を観察した。その現場に入って、かく乱により発生したいろいろな湿地の植物を比較しながら観察した。

○カヤツリグサ科カヤツリグサ属の植物・・・ヌマガヤツリ、カンエンガヤツリ、ホソミキンガヤツリ、コアゼガヤツリ、イガガヤツリ。

○カヤツリグサ属以外のカヤツリグサ科の植物・・・ヒデリコ、マツカサススキ、フトイ、ジョウロウスゲ、カンガレイ。

○タデ科イヌタデ属の植物・・・ヤナギタデ、ウナギツカミ。

○そのほか観察した植物・・・ヒメガマ、ヒロハホウキギク、キシユウスズメノヒエ、ゴキヅル、クサネム、シロネ、ヌカキビ、オオクサキビ、ヒレタゴボウ、エゾミソハギ、ホソバヒメミソハギ、マコモ、セイタカアワダチソウ、ドクゼリ、ヒメミズワラビ、ササバモ、ヒロハノコウガイゼキショウ。

ゴキヅルについては横に2つに割れる果実のつくり、クサネムについては茎が中空なこと、ヌカキビ（在来種）とオオクサキビ（外来種）については小穂の形の違い、エゾミソハギ（在来種）とホソバヒメミソハギ（外来種）については葉の形の違い、などを観察した。

☆自然再生区での観察を終え、霞ヶ浦環境科学センターに戻って解散した。

## 第6回霞ヶ浦自然観察会



自然再生区に向かう途中のハス田のようす



ハス田でミズアオイ(青色の花)とオモダカ(矢じり型の葉)を観察



ススキとオギ、セイタカヨシとヨシを比べて観察



特定外来生物ミズヒマワリ(左)とナガエツルノゲイトウ(右)



湿地でいろいろなカヤツリグサ科植物を観察(左) カンエンガヤツリ(中央) ホソミキンガヤツリ(右)



ゴキヅルの果実とそれを割ってみたところ



タデ科植物のサンプルを並べて比較しながら観察